

葉山の森の活動が始まって、3年が経ちます。葉山の森の活動は、様々なステークホルダーの皆さまの声を聞きながら、地域にふさわしい森づくりを行っています。今回は、3年間の活動で見えてきた考え方や、取り組みをご紹介します！

「地球は先祖から譲り受けたものではなく、子孫から借り受けたものである」

アメリカ先住民ナバホ族の言い伝えにこんな言葉があります。現在地球上には、環境破壊、人口増加、食料不足、経済格差など、数え切れないほどの問題があります。美しい地球を未来の子どもたちに受け渡すためには、そのような問題を一つ一つ解決するとともに、子どもたちと共に「夢」を描いて、実現していくことが必要だと考えています。

「大和ハウス葉山の森」は、森林・里山づくりを通して、自然と人との関わり方の大切さを学び、明るい次世代社会のあり方を考えるとともに、未来を生きる子どもたちに、創意工夫をもって積極的に取り組む精神、多面的なモノの見方・考え方を育んでいきます。



自然環境の保全



葉山の森は、国土保全や地球環境の観点から将来に継承が必要な森林・里山です。貴重な緑を未来に伝えるため、適切な維持管理を行います。

コミュニティづくり



葉山の森は、人々が集い、交流し、自然を楽しむことのできる森林・里山です。様々な人々の交流機会を創出し、地域コミュニティを活性化します。

人材育成



葉山の森は、自然の大切さや自然を通じたコミュニケーションを学べる森林・里山です。美しい地球を次世代につなぐため、未来を担う人材を育成します。

主な取り組み

* 森林・散策路整備



道標の設置や間伐を行い、安全な散策路と健康な森林の維持を行います。

* ボランティア整備



あらゆる人と交流を深めながら、自分たちの手で森づくりを行います。

* ふるさと絵屏風プロジェクト



地域の記憶をたどり、昔の里山の風景を絵屏風として後世に伝えます。

* 自然ふれあい体験会



自然体験の場や、親子の交流の機会を提供しています。



▲葉山の森 位置図



▲葉山の森 地図

2012年11月より「葉山ふるさと絵屏風」の取り組みがスタートし、葉山の森の大部分を占める上山口地区と木古庭地区の町内会を中心に制作を進めています。2014年12月の完成に向けて着々と進むふるさと絵屏風づくり。これまでの取り組みをまとめてご紹介します！

START!

2012年11月18日 ふるさと絵屏風説明会



プロジェクト実施のための説明会。木古庭・上山口の町内で約70名の方にお越しいただきました。

五感体験アンケートを実施！

2013年2月10日 公開聞き取り会



絵屏風には何の絵を描くのか、説明だけでは分からない！ということで、プチ聞き取り会をおこないました。

葉山町の山梨町長や、葉山町外からもたくさんの方に来ていただきました♪

「ふるさと絵屏風」は、滋賀県立大学の上田洋平先生が開発した「心象図法」により描かれるものです。ある地域を対象とし、その地域の生活者一人一人の心に息づく思い出を聞きだし、地域で力を合わせて一枚の大きな絵屏風に集結させます。その土地の生業、祭、四季のうつろい等、生活のあらゆる場面が描かれます。完成した絵屏風は、絵の中にあるエピソードを子どもたちに語り伝え、ふるさとの思い出を未来へつなぐ教材となります。



▲上田洋平氏
滋賀県立大学助教。
約30地域でふるさと絵屏風を推進。地域それぞれの営みを伝えることの大切さを広めている。

▲南比良ふるさと絵屏風

2013年6月16日 絵屏風チーム決起会



いよいよ絵屏風チームの決定！町内に住む絵の得意な方、関東学院大学の学生らが集まり、今後の活動に向けて意欲を語り合いました。

絵屏風チーム募集期間

チーム体制

主催	上山口町内会	木古庭町内会
協力	関東学院大学 人間環境デザイン学科	大和ハウス工業

2013年4月14日 ふるさと絵屏風シンポジウム



絵屏風プロジェクト本格始動！を記念して、シンポジウムを開催。上田先生から、絵屏風に込める人々の“想い”を熱く語っていただきました。その他、プチ聞き取り会と、昭和20～40年頃の暮らしの写真展示が行われました。

五感体験アンケートで集まったエピソード

エピソードの整理

2013年8月5日・9月21日 マンダラワークショップ



2013年11月2日～3日 木古庭文化祭
16日～17日 上山口文化祭



両町内会の文化祭で、マンダラを展示。エピソードを見て昔を思い出し、立ち話をされている方が多くいらっしゃいました。

「親から受け継いだ田んぼを精一杯守り抜く」と、農業に対する熱い想いが語られる場面も。

2013年12月1日 第1回テーマ別聞き取り会
2014年1月18日 第2回テーマ別聞き取り会



人々の思い出として、心に深く刻まれたエピソードの聞き取りを行いました。特に「家・暮らし」と「山・農」の2つのテーマは絵屏風で大きく描かれるテーマとして、じっくりとお話を伺いました。

絵屏風プロジェクトでは、里山に関するたくさんエピソードを体系的に理解するための分類図を“マンダラ”と呼んでいます。絵屏風制作を進める上での見取り図のようなものです。地域の方から集まったエピソードは全部で950個！それらを家・暮らし・集落・農地、小学校、道、山、川、催事の8つのカテゴリに分けました。マンダラを見ると、多くの人から集まったエピソードや、自然と暮らしの関わり方など、里山と人との関係性を見ることが出来ます。

今ココ!

構図決め

全体のアングル、絵の配置決め

下絵制作

実際の紙への描き入れ

下色付け

全体を薄くおおまかに色付け

色付け

最終段階！絵に命を吹き込む

GOAL!

2014年12月完成予定

いよいよ絵屏風の下絵制作の作業に入ります！チーム一丸となつてがんばります！完成をお楽しみに♪

